

「制度の狭間」問題のフレーム**－ 最適な支援のあり方を検討するために－**

○同志社大学大学院 佐藤愛佳 (009866)

[キーワード] 支援の狭間, フレーミング, 支援のあり方

1. 研究目的

対象者別につくられている社会福祉制度の問題として、制度の狭間に陥る人々への支援が空白地帯にあることは、これまで指摘されてきた。しかしながら、制度の狭間に関する問題の所在は未整理な状況にある。狭間に陥る対象者の特定やその者が抱える生活困難の解明、「制度の狭間」が具体的に何と何の狭間を指しているのかといった問題を捉える枠組みや問題の構造は定かではない。さらに、「制度の狭間」という表現と類似して「制度の谷間」という表現もあり、両者は混同しているようである。一方で、「制度の狭間」と類似した問題として、福祉・社会保障政策と雇用・労働政策の政策間に生じる狭間「政策のはざま」（濱口編, 2013）について、20世紀後半に議論された福祉と労働の統合政策の文脈で再検討がなされている。

このように、「制度の狭間」に関する問題には、共通した認識が不在であり、既存の制度では対応できない人々への支援のあり方を検討するには、「制度の狭間」問題の所在を明確化する必要があると考えられる。よって、本研究は、「制度の狭間」はどのような問題だと捉えられているのか、「制度の狭間」は何の問題だとみなされてきたのか、明らかにすることを目的とする。

2. 研究の視点および方法

「制度の狭間」について言及している文献（学術論文, 学術書）, 「制度の狭間」という表現に類似した「制度の谷間」や「支援の狭間」, 「処遇困難」といった表現を用いて、データベースとしてCiNii Articlesを採用し、文献を抽出した。

研究の視点として、「制度の狭間」が、何と何の狭間の問題として捉えられているのか（狭間の種類）, 問題の所在はどこにあるのか（例えば、制度の問題なのか、運用の問題なのか）にもとづき、文献の整理および分析を行った。

加えて、本研究は、分析枠組みとして、「制度の狭間」という問題がどのような「フレーム」によって捉えられているのかという点について重要視した。理由として、問題の対応策は、その問題をどのような枠組みで捉えるのかという「フレーミング」によって異なり、フレーミングは問題認識や問題解決の方向性を規定するからである。

3. 倫理的配慮

「一般社団法人日本社会福祉学会研究倫理規程」及び「研究倫理規程にもとづく研究ガイドライン」を熟読し、研究に取り組むとともに、要旨集の原稿を作成している。

4. 研究結果

ここでは、結果の一部について述べる。

「制度の狭間」が、何と何の狭間の問題として捉えられているのか（狭間の種類）については、空間的な狭間（対象者の選定範囲）、時間的な狭間（年齢による線引き）、領域的な狭間（複数の分野に関わる問題）、狭間には3つの種類があるのではないかと考えられる。以下は、具体的な例である。空間的な狭間としては、障害者に妥当する者はどの範囲までかといった対象の選定に関する問題である。時間的な狭間としては、ライフコースの節目による支援の途切れに関する問題である。領域的な狭間としては、医療と福祉の谷間となる領域が存在する（広井, 2000）問題である。

「制度の狭間」という問題の所在はどこにあるのかについては、「制度の狭間」を「制度の問題」だと認識するものや「制度とソーシャルワークの問題」だと認識するもの、「マクロ、メゾ、ミクロの多元構造にわたる問題」だと認識するものがあると考えられる。例えば、岡村重夫（1983）は、「制度の狭間」を社会福祉固有の領域とする。一方で、猪飼（2015）は、「制度の狭間」の問題は、個人の生活問題に対して、どこまでが制度の問題であり、どこまでがソーシャルワークの問題であるか、という分担の問題であるとしている。また、平野（2015）は、福祉支援の狭間は、制度というマクロだけでなく、機関・組織の運営というメゾ、現場の福祉実践というミクロにも生じる問題だとしている。

5. 考察

上記の研究結果を踏まえると、「制度の狭間」問題の「フレーム」は複数存在し、問題をどのような枠組みで捉えるのか（フレーミング）により、支援の狭間を埋める対応策に違いが生じると考えられる。

「制度の狭間」におかれている人々に、支援を届けるためには、複数のアプローチが考えられる。例えば、協働、連帯、制度の地域における運営、ニーズ準拠型政策があげられる。今後は、どの種類の狭間に、どの「フレーム」を適応するとよいのか、どの解決策が最適であるのか、検討してゆく予定である。

濱口桂一郎編著（2013）『福祉と労働・雇用』ミネルヴァ書房。

平野方紹（2015）「支援の『狭間』をめぐる社会福祉の課題と論点（特集 支援の狭間をめぐる社会福祉の課題と論点）」『社会福祉研究』122, 19-28.

猪飼周平（2015）「『制度の狭間』から社会福祉学の焦点へ：岡村理論の再検討を突破口として（特集 支援の狭間をめぐる社会福祉の課題と論点）」『社会福祉研究』122, 29-38.

広井良典（2000）『ケア学—越境するケアへ』医学書院。

岡村重夫（1983）『社会福祉原論』全国社会福祉協議会。